民主香川
定価　月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
３丁目13－14
☎(087)834-7311

白川よう子四国比例候補
各地で小集会や演説

白川よう子衆院四国比例候補は21日、四国４県の日本共産党が衆院四国比例での議席奪還をめざす「総選挙勝利四国キャンペーン」で、民青同盟香川県委員会が主催の「共産主義と自由　資本論を導きに」の学習会に参加しました。

白川氏は、「子育て三つのゼロとして子どもの医療費・出産費用・学校給食の無償化を公約で掲げる総裁選候補者まで出てきた。これは共産党が掲げてきた政策でこれまで自民党政治が反対し続けてきたものだ」と訴え。

「マスコミが総裁選でジャックされているが、裏金・統一教会の問題には全員後ろ向きだ。正社員の首切りなど様々な政策が語られるが、共通して憲法改正が語られている。自民党の表の表紙が変わっても自民党政治そのものは変わらない」と強調しました。

また、「賃上げと一体の7時間労働に労働時間を短縮する政策を田村委員長が発表したが、今日の学習内容はいまの私たちが生きる社会と地続きの話だ」と優しく解説しました。

参加者からは「『共産主義＝旧ソ連や中国』などインターネットでの誤ったイメージや情報に惑わされないように『共産主義と自由』はぜひみんなに読んでもらいたい」等の感想がよせられました。

同日、白川氏は笹井たかし衆院香川３区候補と丸亀市の後援会の集いにも参加し、駅頭で街頭演説をしました。

インタビュー
たなべ健一　衆院香川一区予定候補

石破茂氏が自民党新総裁となりました。自民党総裁選では裏金問題や統一協会の事は一切語らず、先の通常国会で野党の求めを拒否してきた事も含めて、各候補が好き勝手を言っていました。全く信用できません。逆に全ての候補者が口を揃えて言っているのが憲法を変えるということで、非常に危険です。表で誰が総裁になろうと自民党政治の中身は変わりません。総選挙では、自民党政治で作られた「失われた30年」のおおもとに切り込み、ここをチェンジすれば展望ある日本になるということ、そのためには日本共産党の躍進こそ必要ということを正面から訴えていきます。

Q１　自民党総裁選、立憲民主党代表選の所感と総選挙への意気込みは。

【2面につづく】

太鼓台

石破さんが自民党総裁になりました（9月28日時点）「アメリカに自衛隊の訓練基地を」「アジア版ＮＡＴＯ構想」などアメリカと一緒に戦争をする国づくりをすすめるつもりみたいです。裏金問題にはフタをして、企業団体献金禁止とは一言も言わず旧態依然とした自民党政治を続けようとしているみたいです。

一方立憲民主党は、「共産党とは一緒に政権を組みません」と公言する野田さんが代表となりました。維新の会と手を組もうと秋波を送り、戦争法廃止は棚上げ「国民の皆さん安心して下さい。自民党と政策は変わりません」と言わんがばかり、野党共闘を再構築するためにも日本共産党を伸ばさねばと思うのは私の考え違いでしょうか。

憲法を守り、国民の立場に立ちきる日本共産党が伸びてこそ日本の政治をチェンジできるのではないでしょうか。

【3面から】　袴田さんのような冤罪を繰り返さないためにも再審法の改正を求める地方議会要請に取り組んでおり、三木町議会では意見書が採択されました。全国では３４０を超える自治体で採択されています。

また、９月19日の東京での国会要請と市民集会に香川からも参加し、香川県選出の国会議員６名に要請書を手渡しました。

映画『プラスチックの海』上映会

プラスチックごみによる海洋汚染の実態と影響を知り、解決を考えるﾄﾞｷｭﾒﾝﾀﾘｰ映画

- ●日時　10月13日（日）　午後2時～4時
- ●場所　生涯学習センター
- ●料金　無料
- ●定員　申込先着80人
- ●申込　10月10日までにゼロカーボンシティ推進課へ電話（087-839-2393）

『五大浮世絵師展---歌麿・写楽・北斎・広重・国芳』

江戸時代に活躍した５人の浮世絵師の美人画・役者絵・風景画など約140点を展示

- ●期間　10月12日（土）～12月8日（日）
  月曜休館　月曜日が休日の時は開館し翌火曜日が休館
- ●時間　午前9時30分～午後5時（金・土曜日は午後7時）
- ●場所　高松市美術館　●料金　1200円
- ●記念講演「巨匠たちの競演」　10月12日（土）　13時30分～3時　1階講堂
  講師：山本野理子（川崎浮世絵ギャラリー学芸員）　無料　100人（申込不要）

これからの社会保障を考える
「高齢化、人口減少、そして大軍拡」の流れの中で　⑯

社会保障のあり方について考える会　準備会　藤井　明

前回に引き続き、社会調査に基づく「貧困の発見」に関わって、ラウントリーの業績とそれが社会保障に与えた影響について見て行きましょう。

3】独占資本主義段階……労働運動と社会主義思想の高揚、そして「社会保険」の成立した時代

6）ラウントリーによる社会調査の概要、その②

食品関係の会社を経営していたラウントリーは、栄養学などの科学的な知識を有していたため、生きて行く上で最低限必要な食料品や日用品をカウントすると言う手法（マーケットバスケット方式）を考案して客観的な「貧困線」の設定に成功しました。しかし彼の業績はそれだけに留まるものではなく、次の点も、その後の社会保障の考え方に大きな影響を与えました。

①　貧困家庭を「第１次貧困」と「第２次貧困」に分類し、より具体的な把握を可能にしたこと

・第１次貧困：肉体的生存が危うく日々の食にも事欠くレベルの総収入の家庭

・第２次貧困：肉体的生存はギリギリ保持できるが、それ以上の支出は難しいレベルの総収入の家庭

なお、彼の調査では、ヨーク市の総人口における第１次貧困の割合は約28％、第２次貧困は約18％で、市民の半分近くが貧困との結果でした。そして、貧困の原因については、第１次貧困が「雇用や環境の問題」、第２次貧困では「飲酒や賭博や計画性の欠如」などが多い、とされました。また、この分類は、現在の、「相対的貧困」（何とか食べては行けるけど人並みのことは出来ない状態）、及び「絶対的貧困」（所謂「食うや食わず」或いは「赤貧洗うがごとし」の状態）と言う考え方に通じるものです。

②　ラウントリーは「ライフサイクル」と「貧困」には一定の関係があるということも明らかにしました。これは「人の一生には貧困に陥りやすい時期が３回ある。それは、自分自身が子どもの時代、結婚して子どもが生まれてからその子たちが稼ぎ始めるまで、そして高齢期である」と言うもので、社会保障の体系に影響を与えました。

7）この項のまとめ……貧困の「自己責任」と言う考え方は、１000年以上も前に、社会民主主義の影響もあったとは言え、他ならぬ資本家の側に属する人たちによって、科学的且つ明確に否定されていた！！

この間３回に渡って社会調査に関わる歴史を書いて来ましたが、これは「自己責任論が如何に非科学的で非人間的な考え方であるか」を分かって頂くためでした。実はブースやラウントリーの業績は現在の社会福祉士国家試験にも出題されるほどで、現場で働く福祉の専門職の間では、貧困の主な原因は「自己責任」だ、と考える人は少ないと思います。それにも関わらず、未だに「自己責任論」を振りかざす政治家や財界人がいると言う事実は、「自己責任論」がどれだけ彼らにとって都合がいいか、責任逃れが出来るか、という事の証しでもあります。

※余談ですが…最終的にはネスレに買収されてその名前は残っていないものの、チョコレート菓子の「キットカット」を初めて作ったのはラウントリーの食品会社だったそうです。